

2024年7月

NPO法人 学習塾全国連合協議会

NPO 塾全協

塾全協通信

題字：怜齋（白川亮 進ゼミ柏）

NPO 塾全協 & 私塾ネット関東 共催 大学入試セミナー

日時：2024年6月23日(日) 14:00~16:30

場所：ワイム会議室 高田馬場3D

講演1 大学入試制度、総合選抜

講師：ブロードバンド予備校 松岡茂氏
(株式会社ライブロード代表取締役)

《講演概要》

5月に開催した「大学入試を考える会」とほぼ同じですので、塾全協通信6月号を参照下さい。

5月の時になかったことだけを下に書きます。

・総合選抜や指定校推薦で合格した後、課題が多く出される。
その後4年間監視される。

〈共通テスト〉

・(国語) 古文漢文からやる。「実用的な文章」は出来不出来の差が大きい。ラッキーナンバーにかける。

・(数学) 「統計的推測」に注目。

・(情報I) プログラミングで差がつく。

・(英語) リーディングの成績上位者が減っている。文章を正しく理解していなければ解けない問題が増加し、最後まで読まないで解けない。語彙力と長文の速読読解の重要性がより高くなった。中学校の文法が曖昧で語彙力が少ない子は高校に入ってから苦勞する。単語数はセンター試験の最後の年である2020年に比べ、約2000語増えている。



講演 2 情報 I (中高生向け IT・プログラミング教育サービス)

講師：辻 優徳氏 (株式会社ライフイズテック 学習塾事業推進室)

《講演概要》

学校向けと学習塾向けは全く異なり、学習塾向けは共通テスト・学校の定期テスト「情報 I」対策教材である。

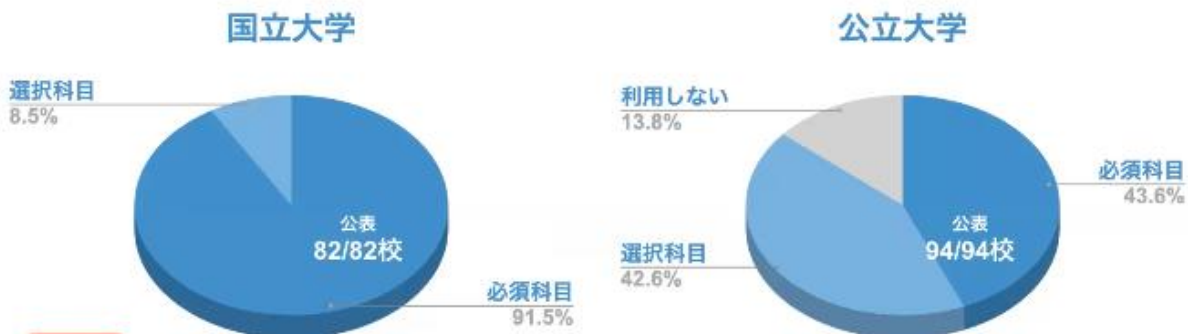
国大協は、原則、現役生には 2025 年 1 月の共通テストに「情報 I」を受験科目とすることを決定。従来の 5 教科 7 科目に「情報 I」を加えた 6 教科 8 科目が課されるが、保護者には余り認知されていないので、高校生に「情報 I」の重要性を正しく伝えていくことから始めなければならない。

予想配点は次の通り。

(1) 情報社会の問題解決	(2) コミュニケーションと情報デザイン	(3) コンピュータとプログラミング	(4) 情報通信ネットワークとデータの活用
(主な学習内容)	(主な学習内容)	(主な学習内容)	(主な学習内容)
情報とメディアの特性	コミュニケーションとメディア	ハードウェアとソフトウェア	通信プロトコル
問題解決の考え方	数値と文字の表現	論理回路	インターネットの仕組み
情報セキュリティ	音と画像の表現	アルゴリズム	データの収集と種類
個人情報と知的財産権	データの圧縮	変数、演算、配列、繰り返し	データの分析
著作物の利用と権利	Web ページと情報デザイン	関数、分岐、探索、ソート	データの活用とデータベース
共通テストの配点予想		共通テストの配点予想	
34点		33点	

国公立大学 2025年1月共通テスト「情報 I」の利用について

(2024年3月12日ライフイズテック調べ)



Point

国公立大学は91.5%が「必須科目」として利用、公立大学は「必須・選択」を合わせて85%以上が利用。

国公立大学は共通テスト「情報 I」が原則必須、配点も原則課される



私立大学は「共通テスト利用入試」の選択科目として導入を加速

例) 共通テスト「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「情報Ⅰ」の中から1科目選択 (100点)

➔ **最も点数の高い1科目**の得点を採用して合否判定

「情報Ⅰ」を共通テスト科目として課す私立大学の例 ※一部抜粋 (2023年7月時点)

早稲田大学

明治大学

青山学院大学

立教大学

学習院大学

日本大学

[Point]

「情報Ⅰ」は他の科目 (物理、化学、生物、地学など) と比べて共通テストで**高得点を狙いやすい!**

私立大学の「共通テスト利用入試」では、「情報Ⅰ」対策でワンランク上の合格が狙える

「情報Ⅰ」の教材例

第3章 情報社会の問題解決

個人情報 (応用) 全2問



Q1.

次の文章を読んで、個人情報保護の観点から適切ではない点の説明をすべて含むものを1つ選べ。

Aさんは学校の探究活動の一環で「SDGsに関する高校生の意識調査」を行うことになり、無料Webサービスのアンケート作成ツールを利用することにした。このツールは、質問したい内容を設定し、回答用のURLを他者に伝え、Web上で簡単にアンケートが実施できるものである。Aさんは、回答内容に影響があると良くないと思い、アンケートの趣旨や利用目的は特に書かずに、名前、住所、生年月日、学校名の記入欄と、SDGsに関する質問項目だけを設定した。その後、アンケートの回答用URLを友人に共有し、さらにSNSでアンケートを拡散してもらうことで、多くの回答を集めることができた。名前と住所は分析に利用しなかったが、満足できる分析ができた。

- a. Web上のアンケート作成ツールを利用している
- b. アンケートの回答用URLを友人に共有している
- c. アンケートに利用目的を記載していない
- d. 名前や住所など、分析に必要な情報も取得している
- e. SNSを利用してアンケートを拡散している

すべて

a, b, e

d

c, d

b, e

c, d, e

わからない・習っていない



Q1.

次の (ア) と (イ) に入れるのに最も適当なものを 1 つずつ選べ。

下記の Tokuten や Kamoku のように、複数の数値や文字列などの値を格納して管理するものを (ア) といい、Tokuten の 52 のように、(ア) に格納されている一つひとつの値を (イ) という。

```
Tokuten = [52, 83, 63, 75, 45]
```

```
Kamoku = ["国語", "数学", "英語", "化学", "公共"]
```

(1) (ア) に入れるのに最も適当なものを 1 つ選べ。

Q1.

次の () に入れるのに最も適当なものを1つ選べ。
家庭や学校、企業のオフィスなど、1つの建物や敷地内など限られた範囲で利用されるネットワークを () という。

LTE

LAN

WAN

Wi-Fi

ISP

「情報 I」対策のポイント

- (1) 共通テスト対策 高3は既に学校の履修を終えているので早期の対策開始が可能。
- (2) 学校の定期テスト対策 学校での「情報 I」の履修期間は、基本的に1年間のみ。
全国的に見ると高1生または高2生で「学ぶことが多い。(約70%は高1)

「情報 I」で通信簿3をとるか5をとるか全体平均は4.2と4.4で0.2違ってくる。これが大きく影響する。1学期で躓くとあとで頑張っても5は取れない。1~3学期で、それぞれ高い評定を取る事が重要。

また科目の特徴は、履修期間が1年間で、積み上げ科目ではないとこ。

学習塾向け「情報 AI ドリルの特徴」 ①個別最適型 ③自走型 ④予想問題

弊社の教材はタブレットまたはパソコンがあれば出来る。

圧倒的な問題量(1500問以上)を収録。

- ②体験型 プログラミング実行環境の学習機会。「情報 I」やプログラミング楽しいというポジティブな印象を与える。
- ③自走型 分からないところがあればその場で質問に答えてくれる。(18:00~21:30 それ以降は翌日)
- ④予想問題 (過去問がないので弊社で作成) 毎年4回分の予想問題演習が可能。不正解問題は一人ひとり個別最適な復習問題を提示。

夏期講習で使用した後の他社の共通テスト模擬試験での得点率の変化の例

81%→100%、44%→88%、19%→81%、

「情報 I」が全く分からなかった生徒(もともと理学部志望)が学校の定期テストで97点を取り情報系の学部に興味をわいてきた。



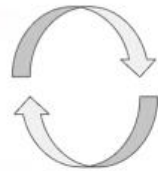
基礎力定着から共通テスト対策・学校の定期テスト対策までこれ1本で完結！
AIドリルの個別最適化された反復学習で確かな得点力を養成する

アウトプット

AIドリルで苦手克服と実戦演習



知識の定着
実戦的な学習



苦手分野の復習
自分専用カリキュラム

インプット

一人ひとりのペースで学べる

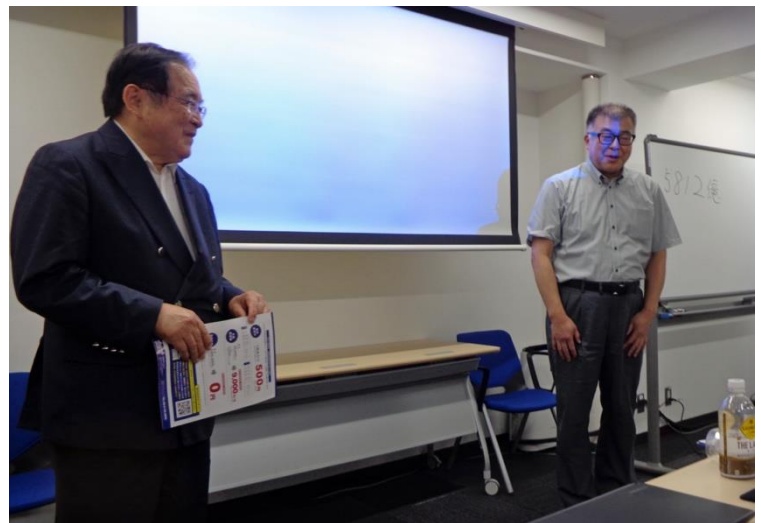


共通テスト対策を受講目的とした現役生の受講モデル

- ① 基礎からコース 20~36 時間 (1 コマ 60 分/5~9 カ月) → 共通テスト予想問題コース (1 コマ 60 分 /1.5~3 カ月)
- ② 弱点克服コース 8~28 時間 (1 コマ 60 分/5~9 カ月) → 共通テスト予想問題コース (1 コマ 60 分 /1.5~3 カ月)



費用についてはライフイズテック社 (03-5877-4879) までお問い合わせ下さい。



辻 優徳氏

挨拶する NPO 塾全協 内藤潤司会長と

山本太志 東日本ブロック副理事長・財務局長

編集 NPO 塾全協東日本ブロック事務局長 中山和行
 〒350-0322 埼玉県比企郡鳩山町今宿 553-1
 TEL49-296-1111 fax 049-298-3405 E-mail gyqbt650@ybb.ne.jp
 NPO 塾全協東日本ブロック HP <http://www.jzk-east.com>